

学校概要

創立 54 周年	学校長 宮路 ますみ	副校長 本田 昌彦	学期 2 学期制	児童・生徒数 526 人
学級数 一般級: 16 個別支援級: 3		主な関係校: 東野中学校		

学校教育目標

- ☆学び合い 認め合い 未来にかけよう二つ橋
- 自分の考えをもち、楽しく学び高め合う子を育てます。(知)
- 自分も相手も大切に、心豊かな子を育てます。(徳)
- 心と体をきたえ、自ら行動できる子を育てます。(体)
- 地域の人や物を大切に、共に生きる子を育てます。(公・開)

学校の特徴

- 三ツ境の駅から徒歩圏内の住宅街に位置し、家庭環境が落ち着いており、保護者は学校に協力的である。
- 保護者・地域からの信頼は厚く、学援隊として保護者や地域の方々が毎日校内の見守りを実施している。
- 教職員は皆真面目で、熱心に教育活動を行っている。主任がしっかり若手の育成に取り組んでいる。
- ここ数年で学習指導要領の改訂等もあり、今までの教育活動を見直すと共に、新たな取組を模索していく必要がある。
- 経験の浅い教職員が増加しており、OJTの一層の充実が求められる。

学校経営中期取組目標

- 子ども一人ひとりが自己有用感を高めることができるような、安全で、快適で、学ぶ楽しさを味わうことのできる学校にします。
- ・児童一人ひとりを大切に寄り添い、心の通ったきめ細やかな指導を行うことで、子どもたちの自尊感情を育みます。
- ・子どもたちが安全で安心して過ごすことができるよう、職員それぞれの立場から学校運営に携わります。
- ・学習の基礎基本をしっかり身に付けることができるよう教職員の授業改善を積極的に行い、どの子もわかったと実感できる授業づくりを目指します。
- ・地域と共に歩む学校づくりを推進していきます。
- ・人とのかかわりを大切に、あいさつを通じてコミュニケーション力の向上を図っていきます。

小中一貫教育の取組

東野中	ブロック	東野中学校 二つ橋小学校 相沢小学校
9年間で育てる子ども像	夢と目標をもち、自分らしさを発揮しながら主体的、協働的に社会を生き抜こうとする子ども	
自校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の小・中連絡会、年2回の小中交流授業を継続し、すべての教員の協働で小・中一貫カリキュラムの質を高める。 ・小・中9年間の成長プロセスを見通し、二つ橋スタンダードの質を高めると共に、共有化する。 ・小・中それぞれの教育活動の中で互いに交流を図っていく。 	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の確実な定着を図るために、横浜市学力・学習状況調査の結果を活用・分析し、指導方法や指導形態を柔軟に扱う。 ・学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学力・学習状況調査の分析をもとに、各教科のカリキュラムにおいて重点取組項目を挙げ、実施していく。②4年生以上に教科担任制を取り入れ、公平な評価の実施を行うとともに、授業の中に、主体的で対話的な学び合いを積極的に取り入れ、思考力・表現力のより一層の伸長を図る。③朝読書や朝学習(スキルタイム)の実施、継続した家庭学習の取組により、基礎基本の充実を目指す。
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安心して過ごせる学校づくりを推進し、いじめの根絶と不登校の減少を目指す ・文化芸術体験を通じ、豊かな感性や情操を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①道徳の教科化をふまえ、指導方法や評価の在り方について研究を推進する。また、各クラス1回以上道徳の授業を公開し、学校の取組について保護者に理解してもらえる機会をもつ。②互いの関わりを大切にした集団活動や体験的な活動の充実を図る。③いじめや不登校の問題に教職員が協働して取り組み、関係機関と連携して改善を図っていく。
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付け、積極的に運動に取り組む態度を育てると共に、体力を高める運動を継続して行い、基礎体力の向上を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①体育の重点研究を通して、体を動かすことによる楽しさを実感できるようにする。②体を動かす機会を多く作り、集会や特別活動などで運動を取り入れた取組を行うことで、基礎的な技能の習得を図っていく。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域のサポートを生かし、開かれた学校づくりに努めると共に、学校と保護者と地域が互いに連携し合い、協働して児童の健全育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校内外の児童の安全のために、地域の方や保護者の見守りを一年を通して行う。②地域にある福祉施設や学校との連携を密にし、年間を通して計画的に交流することで人権意識を育む。③地域行事に子どもたちが進んで参加するよう呼びかける。また、職員も参加し、子どもたちの活動を見まもるようにする。④授業参観・懇談会を定期的に開催し、保護者に教育活動を見てもらう機会をつくる。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の有無にかかわらず、特別な教育的ニーズのある児童に対しての支援を行う体制の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①日々の児童観察を丁寧に行い、多くの教職員の目で児童一人ひとりを把握し、学年行事や学校行事など学年全体で指導を行う。②特別支援を必要とする児童の課題を共有し、どの教職員も同じ対応ができるようにする。スキルアップ指導も継続し、個に応じた支援を適切に行う。③特別支援教育についての情報は積極的に保護者に発信していく。
教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード面・ソフト面両方に関して、今日的な教育課題の見地から鑑み、環境整備を行っている。限られた予算の中で、優先順位を付けながら、計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報・視聴覚機器を充実させ、有効活用を行う。また、情報・視聴覚機器の機器の整備も計画的に行う。②大量廃棄により少なくなった蔵書数を改善させていく。③清掃活動を丁寧に指導し、校舎内の環境整備に努め、安全で清潔な教室環境を整える。④学年研究会等で教室環境の整備や掲示物の効果的な提示について共有し、よりよい学習環境をつくる。
児童・生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のスタンダードを徹底させることで、子どもたちの生活を安定させる。 ・児童支援専任を有効活用し、保護者・児童の相談活動を活性化させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①あいさつ運動を継続するとともに、朝の声かけや休み時間の遊びを通して児童理解に努める。②課題を抱えている児童については、担任とともに専任がかかわり、児童・保護者の気持ちに寄り添いながら声かけを行っていく。③児童の様子や人間関係を丁寧に見とり、担任、学年、専任とで情報を共有し、連携して指導を行う。
人材育成・組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の校内人材育成研修をより充実させることで、授業改善の意識を高め、教職員の専門性の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①3年次研などを連携して行い、メンターチームとして機能するようにする。 ②ミドルリーダーの育成に努め、メンターチームと連携を図る。 ③職員研修委員会を中心に、年間を通して計画的に校内人材育成研修の推進を図る。
いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは絶対に許されない人権侵害であると認識し、組織的に対応していじめ防止に務める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①いじめはどの集団にも、どの子にも起こりうることを認識し、生活アンケートの結果や児童のつぶやきなどから児童が抱えている問題に対して誠実に対応する。 ②今年度も「いじめ対策防止委員会」を機能させ、いじめの早期発見、早期対応を図る。